

5月2日 (火)

光を愛しますか？ それとも憎みますか？

聖書朗読 ヨハネ 3：18～21

そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それと
その妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。

創世記 3：8

肉体的にも霊的にも私たちは光と闇が混在するこの地上で生活をしています。
さまざまな人々が、さまざまなやりかたで光と闇を利用します。

ニコデモは、夜ひそかにイエスのもとを訪れたことで有名な人です。立派なこ
とに、彼は光を求めに来たのです。イエス様が言った言葉に対する彼のその時の応
答については明らかではありませんが、聖書には、その後の彼が、イエス様が与え
る光を彼が喜んで受け容れたことが記されています(ヨハネ7：50, 19：39)。

闇の中にあっては、罪は隠されます。しかし、それは一時的なものです。光の
中にあっては、罪は全て曝け出されます。だからこそ、一部の人々は、それを恐れ
て、闇の中に留まり続け、罪を重ねることを選択するのです。その他の人々は、曝
け出すことを受け容れるのです。曝け出すことによって、赦しがもたらされるから
です。

神様の目から私たちが隠そうとする罪は、私たちを破滅へと導きます。私たち
が自らの意志で罪を光の下に曝け出すとき、キリストによって罪は取り除かれるの
です。栄光の救い主の光を信じ、喜びをもって受け容れるものには、等しく救いが
もたらされるのです。

讃美歌 第二編 161

祈り 主なる神様。あなた様の慈愛の光の前に歩み出ることを恐れないように、
どうか私たちを助け強めてください。あなた様の御子の血によって贖わ
れた救いの光のうちに、私たちの不信仰の闇のうちに隠されたる私たち
の罪を洗い清めてください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

リチャード・E・ウルフ
カンザス州 オレイサ

5月3日 (水)

願えば与えられます

聖書朗読 ヨハネ 4：10～15

あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。

ヤコブ 4：2

「お伺いくださると知っていれば、不在にはしなかったのですが。」知っていよ
うが、知っていまいが、私たちはすることを選択します。

今日の聖書の箇所にあるサマリヤの女性は、大切な二つのことを知りませんで
した。ひとつは、神様がくださる賜物、もうひとつは、目の前にいる水を飲ませて
くれと言うユダヤ人の男性が誰なのかということです。もし、そのことを知ってい
れば、唯一、彼に生ける水を求めることに、合点があったことでしょう。

彼女は、賜物について極めておぼろげな考えしか思いつきませんでした。そ
れが、目の前にいるイエス様が普通の男性ではないということを理解する始まりと
なったのです。渴くことがなく、水をくみにこなくてもよいというその機会は、十
分以上の価値があります。彼女はそれを求め、そしてそれが全てを変えたのです。

『求めなさい。そうすれば与えられます。』『だれであれ、求める者は受け、捜
す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。』とイエス様は仰いました(マタイ7：
7, 8)。神様に敵対するものは返すことを考えず、問い続けることしかしません。
しかし、どのみち、誰にとっても、神様が与えてくださる賜物は、私たちに
は対価を支払うことなど到底できない、はるかに価値あるものなのです。

あなたの心のうちに神様の賜物があることを覚えていますか？神様はあなたが
決して得られないような素晴らしいものを与えようと願っておられます。それを見
つけたいですか？すべては願うことから始まるのです。

讃美歌 第二編 167

祈り 主なる神様。私たちはあなたの善と賜物が最上のものであることを知っ
ています。私たちは、あなた様が私たちのためにお選びになった御恵み
を願っています。私たちに与えられた生ける水である御霊を通して、私
たちを今日も新たに作りかえてくださいますように切にお祈り申し上げ
ます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

イアン・シェルバーン
テキサス州 アビリン

5月4日 (木)

誰が決めたのか？

聖書朗読 ヨハネ 7：16～19

あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。

コロサイ 3：17

子ども達は不満があると、泣き叫んで、他の人の言葉をないがしろにします。「誰がそんなことを決めたんだよ！」と、他の人の言葉の正当性について、質問を浴びせかけます。こういった質問は何も子どもに限ったことではありません。イエス様の時代にあって、パリサイ人やユダヤ人の宗教指導者たちは、イエス様に対して同じ質問を繰り返しました。本日の聖書箇所にある、ヨハネの福音書のイエス様の教えは特に大切です。神様の栄光を求める者であれば、イエス様の言葉と行いの全てが、自身の栄光を求めるものではなく、イエス様を遣わした父なる神様から出たものであることがわかるはずだと、イエス様は静かに語られたのです。

ヨハネの福音書は、わたしたちの言葉と行いの全ては、唯一、神様の栄光を求めるためだけにあるべきであり、そのことを実践されたイエス様に倣い・つき従うことをわたしたちに勧めています。イエス様が語られた、ぶどうの木の枝と実のたとえ話では、イエス様から離れては、わたしたちは何もできないことを教えています(ヨハネ15)。この真実は私たちが静思するのに役立ちます。わたしたちの行いの大半は、神様の栄光ではなく、自身の栄光を求める欲望から生まれたものです。わたしたちは、あまりにそのことが多いことに恐れおののきます。

「誰が決めたのか？」と尋ねられても、いかなるときにも、「わたしの教えはわたし自身からではなく、わたしを遣わした方から来たものです。」と、静かに答えることができるように祈ります。

讃美歌 338

祈り 愛する神様。あなた様への全き信頼を覚えさせてください。わたしの口から出るいかなる言葉も、心のうちにある思いも、そして全ての行いが、あなた様のご栄光だけを追い求めるものでありますように。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

アール・D・ラベンダー
テネシー州 ブレントウッド

5月5日 (金)

神様のみこころを選びなさい

聖書朗読 ヨハネ 7：14～24

だれでも神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。 ヨハネ 7：17

イエス様がわたしたちの救いのために神様から遣わされたということは素晴らしい恵みです。もし、イエス様が自身の栄光だけを求めていたのなら、私たちの信仰は空しく、何の希望もありません。しかし、イエス様は自身を遣わした方の栄光を求めておられたのですから、イエス様はまことに真実の方なのです。私たちはその教えに聞き従わなくてはなりません。

また、イエス様は、わたしたちに神様のみこころを選ぶことができるようにしてくださいました。このことも大きな恵みなのです。その恵みを受けるかどうかはわたしたち次第なのです。神様はわたしたちにつき従うことを強制されません。

神様のみこころを選ぶことはわたしたちの人生の歩みにおいて最も重要な決断となります。神様を完全に知るためにそれをしなくてはなりません。わたしたちが神様のみこころにつき従うことによって、イエス様がまことに神様から遣わされたことがわかるのです。

ユダヤ人たちは神様のみこころにつき従うことを選びませんでした。ですから、イエス様が、ユダヤ人と同じように学んだことがないのに、彼らをはるかに超える知識をお持ちになっていたことが理解できなかったのです。ユダヤ人たちはイエス様が神様から遣わされ、その教えが神様から出たものであることを理解できませんでした。それこそが、イエス様の教えの源なのです。

イエス様が神様から遣わされ、その教えが神様から出た真実なものであることを共に喜びましょう。

讃美歌 第二編 184

祈り 父なる御神様。あなた様が私たちに望んでおられることをいつも覚えさせてください。そしてそのことを為すことができますようにお導きください。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ナンシー・ファーガソン
テキサス州 アビリン

5月6日（土）

若 僭 王 ？

聖書朗読 ヨハネ 8：48～53

ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ、あなたがたの王です。」

ヨハネ 19：14

英国の歴史の中でも、チャールズ王子は人々から愛され、若僭王として知られています。僭王という単語は興味深いです。彼の祖父スコットランド王ジェームズはカトリックの絶対王政をめざし、プロテスタントを排除しました。その後の歴史は非常に混乱しましたが、簡単に言うと、彼の息子とその息子であるチャールズ王子は王位を諦めず、正当な王位継承者であると主張し闘争を続けたのです。「僭王」とは正当な資格がなく、王位を主張する者を指すのです。

「言ったことが現実になるとは限らない。」という言葉が頭に浮かびます。

今日の聖書の箇所は、ユダヤ人の指導者たちとイエス様の対立です。彼らはイエス様を「神の王座を狙う僭王」だと決めつけたいのです。しかし、イエス様の御力はその王位の正当性の証でありゆるぎのないものです。王である御父は命を与えることができます。御父はイエス様を死より甦らせました。まことに、御父は、御子を信ずるすべての者に永遠の命をお与えくださるのです。

イエス様は僭王ではありません。王の中の王なのです。君主の中の君主なのです。

讃美歌 162

祈り 愛する神様。まことの王であり全てを統べ治めるあなた様の大いなる御名を賛美申し上げます。あなた様の天の王国がこの地上にもありますように。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ナンシー・ベイカー

テキサス州 アビリン

5月7日（日）

と り な し

聖書朗読 ヨハネ 17章

まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がささげられるようにしなさい。
I テモテ 2：1

とりなしの祈りとは、兄弟姉妹を代表して神様に捧げる祈りのことです。私たちは、病のうちにある者に癒しが与えられるように、教会の指導者たちに良き導きが与えられるように、友人たちに相応しき仕事を与えられるように、国家の指導者たちが神の御心を成すことができるように、と祈ります。他者へのとりなしの祈りによって、私たちの祈りは開かれ、大きく広がるのです。

イエス様は人々を代表して神様にとりなしの祈りを捧げました(ヨハネ 17)。ご自身について祈られた後(1～5節)、弟子たちのために祈られ(6～17節)、そして、わたしたちを含めた全ての信者のために祈られました(20～26節)。イエス様はわたしたちが御言葉と共に歩み、聖別してくださるようにと神様に祈ってくださいました。イエス様はわたしたちのためにとりなしの祈りを捧げてくださったのです。

イエス様がわたしたちのために祈ってくださったのですから、わたしたちはイエス様をいっそう身近に覚えるのです。わたしは、他者のために祈りを求められた時に、喜んで祈っています。イエス様の祈りと同じように、この地上における、わたしたちのとりなしの祈りは牧会に必要なものなのです。

わたしたちが他者のために祈るとき、神様はイエス様の祈りに答えられます。『わたしたちは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。』(23節)

讃美歌 310

祈り 愛する神様。私たちが、人々がこの世の中にあって、この世に捕われることなく歩みことができるようにと祈ることができますようにお導きください。あなた様の助けや守りを求めている私たちの友人・知人のために祈ります。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ハロルド・シャンク

ウェストヴァージニア州 ヴィエンナ